

第14回Global Economic Analysis年次大会 世界的な課題の統制：気候変動、貿易、金融、開発

ERINA 調査研究部・経済交流部主任研究員 Sh. エンクバヤル

第14回global economic analysis年次大会が、2011年6月16日～18日、イタリアのヴェネツィアCa' Foscari 大学 San Giobbe キャンパスで開かれた。会議は、Fondazione Eni Enrico Mattei, Purdue 大学Center for Global Trade Analysis, Ca' Foscari大 学、Euro-Mediterranean Centre for Climate Change、International Center for Climate Governance、Center for Thematic Environmental Networksによって開催された。この年次大会は、世界経済問題の定量分析を行うエコノミスト同士の意見交換の促進を目的とし、とりわけ応用一般均衡モデル、データ、応用に重きを置いている。今年も、貿易、金融、開発など世界的な課題の統制がテーマであった。世界各国から250名以上の専門家が参加した。

会議では、3つの全体会議と47のテーマ別セッションが一斉に行われた。全体会議では、市場と金融、気候変動、発展、開発、貧困に焦点が当てられた。全体会議の発言者の1人は、未だに古い制度に助成金を出している中国経済の非効率性について指摘した。また、国務院発展研究中心のLi Shantong 博士とHe Jianwu博士によれば、経済体制と成長の違いにより、国内の各省間におけるエネルギー消費量と炭素排出量には大きな差異があるという。2008年のGDP当りの炭素排出量が最も高い省は、最も低い省の6倍であった。2020年までの国内の排出削減目標義務を達成するために、中国政府は市場を基盤とした手段の活用と、国内炭素取引プログラムの導入を予定している。このプログラムは、省別の一人当たりの炭素排出量（一人当たりの

原則）または歴史的（累積）な省別の炭素排出量（グランドファーザー・プリンシプル）に基づく割当量配分（排出割当）の導入を見込んでいる。国務院発展研究中心が開発した多地域型の計算可能な一般平衡モデルに基づく分析によれば、エネルギー資源に恵まれて原単位が高い西部の各省は、相対的に開発の進んだ省と比較して、いずれの場合も福利厚生損失がより高くなる傾向にあることが示された。それにも関わらず、一人当たりの原則に基づいた割当量配分は、グランドファーザー・プリンシプルに基づくものよりも公平である。

その他に、世界銀行アフリカ地域のチーフエコノミスト、Devarajan Shanta博士が「CGEモデルは貧困を終息させられるか」という興味深い発表を行った。博士は、貧困は70年代と今日では変わらず、むしろアフリカでは増加しているという都合の悪い事実を強調し、貧困は市場と政府の失策であると述べた。市場の失敗は、比較的修正が容易であるが、政府の失敗はより深刻であるという。しかし、CGEモデルは政治的な市場の失敗を解決することができるかもしれない。

今回の会議は、参加者同士が知識を得て意見交換を行い、ネットワークの幅を広げるための良い機会であった。第15回年次大会は、2012年6月27日～29日に、スイスのジュネーブで行われる。会議のテーマは、「世界の貿易と持続可能な開発に向けた新しい課題」である。

[英語原稿をERINAにて翻訳]

全体会議の様子（筆者撮影）



休憩時間（筆者撮影）

